

JobCenter 導入事例

株式会社NTTデータ東海 様

ジョブ定義の移行を自動化する専用ツールで
開発コストの削減と構築期間短縮を両立

株式会社NTTデータ東海
第三事業部
営業部長
服部 洋幸 氏



株式会社NTTデータ東海
第三事業部
開発担当 課長代理
米子 康恵 氏



株式会社NTTデータ東海
第三事業部
開発担当 課長代理
道場 一博 氏



日本ヒューレット・パッカード株式会社
HPソフトウェア事業統括
ITマネジメント事業部
ソリューション技術部
ソリューションコンサルタント
小林 大輔 氏

導入前の課題

ツールの価格は魅力。
しかし定義移行コストが障壁に

NTTデータ東海様がお客様から受注したのは、既存システムのハードウェア更新および業務見直しに伴うシステム改修案件でした。ハードウェアは日本ヒューレット・パカード（以下、日本HP）製の導入が確定しており、このタイミングで運用管理ツールも他社製品からHP Operations Managerへリプレイスすることが決定しました。リプレイスに際して課題になったのが、ジョブ管理ツールの移行でした。

日本HP様では、ツールの導入コストおよびランニングコストを削減するために、NECからOEM

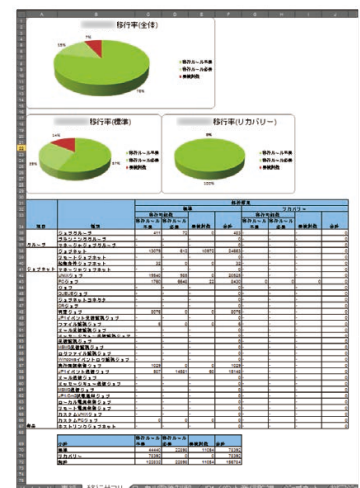
供給されているジョブ管理ツールJobCenterの導入をお客様に提案しました。提案を進めていく中で、機能面も十分で、ツールのコストも確実に減らせるものの、既存のジョブ管理ツールから定義を移行するには膨大な追加コストが発生してしまうことが大きな課題として残りました。「既存システムでは2000を超えるジョブが存在し、すべてを再定義するには膨大な工数がかかると予想されました。試算によれば、当初の見積り約4倍コストが上乗せされ、構築期間も2倍以上になることがわかったのです」とシステム構築を担当したNTTデータ東海第三事業部開発担当の米子康恵氏は話します。

導入の経緯

移行にかかる工数を“見える化”する
アセスメントツール

ジョブ定義の移行に伴う困難さは、ジョブ数の多さだけではありませんでした。お客様は西日本一帯に15拠点を展開し、拠点ごとに異なる記述でジョブを実行していました。ジョブの定義は、階層化や並列処理、条件分岐などを多数利用しており、全体像を正確に把握するだけでも大変な作業でした。「JobCenterの開発元であるNECに相談したところ、定義移行ツールを使えば、ある程度の作業を自動化できることがわかり、その提案を採用しました」と本案件を担当した日本HPのITマネジメント事業部ソリューションコンサルタントの小林大輔氏は話します。

● アセスメント結果



定義移行アセスメントツール。既存の定義を読み込むだけでジョブ数や変換率などを表示。

NTT DATA

株式会社NTTデータ東海

社 名：株式会社NTTデータ東海
所 在 地：愛知県名古屋市中区錦2-17-21
設 立：1990年3月6日

資 本 金：1億円

従業員数：378名(2014年2月1日現在)

事業内容：各種情報システム、それに係るソフトウェアの開発、保守の受託、販売並びに賃貸、その他

U R L: <http://www.nttdata-tokai.co.jp/>

最初に、定義移行の精度を明確化するためにアセスメントツールを利用して既存の定義を分析しました。このツールは移行の前段階で、既存のジョブフロー数やジョブ数がいくつあるか、そのジョブ定義の何割を自動移行でき、どのくらい手作業が残るのかを“見える化”することが

できます。ツールの使い方はいたって簡単です。お客様が現在利用しているジョブ定義のデータを提供いただき、これをJobCenter専用のアセスメントツールに取り込むだけで詳細な分析結果がグラフと表でわかりやすく表示されます。今回の案件では、アセスメントの結果、9割以上

自動移行可能だとわかりました。また、自動移行できない部分の理由も明確で、その回避も簡単にできると判明し、これならコスト、期間ともに問題はないとの判断が下り、コストメリットの高いJobCenterへの移行が正式に決定しました。

導入後の成果

変換精度も良好、定義修正も エクセル編集ツールで効率化

「アセスメント結果を元に、単純変換できない部分について方式を検討しました。約1カ月程度のやりとりで定義の移行が終了し、移行後の定義に関しては、問題なく動作確認できました。プロジェクトの当初からNECの担当者が、JobCenterと既存ツールの相違点等を文章だけではなく画面キャプチャも使ってわかりやすい資料で提供してくれたので、とても助かりました。また、ジョブ名が長すぎて登録できない問題が発生した際には、仕様を拡張していただくという臨機応変な対応をしてくださいました。今回は、単なるシステム更改だけではなく業務の統廃合もあり、ジョブの組み直しが多数発生したのですが、その際に、Excelで定義を編集できる

Definition Helperというオプションツールが非常に有効でした。Excel上でジョブ名の一括変換や一括削除などができるだけでなく、フローの確認をExcel上でできる点がいいですね。従来は、実機に定義を取り込みキャプチャを行うという作業が必須でしたが、この機能のおかげで効率よく作業ができました。私自身も開発に携わったSEもJobCenterに触るのは初めてでしたが、予想以上にスムーズに利用することができました」と米子氏はNECの対応力とDefinition Helperの使い勝手を評価しています。

「開発現場では、どこでも実機のテスト期間は限られています。今回もJobCenterの実機を使えたのは2週間程度でした。この短期間に膨大な数の定義を検証し、問題をすべて潰すなんて想像しただけで大変です。しかしJobCenterは、

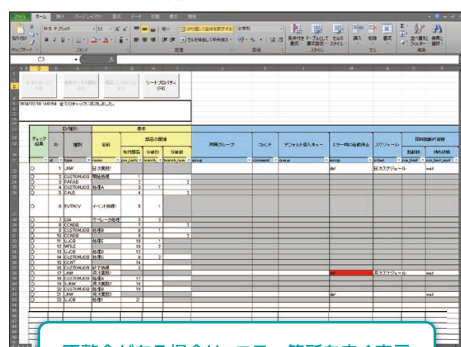
あらかじめExcelで定義の編集と確認ができるので、実機での検証に時間がかかりません。これは運用後も同様で、稼働中の実機を止めずにExcelで定義の編集ができるわけで、これは運用側にとって大きなメリットです」とNTTデータ東海第三事業部営業部長の服部洋幸氏はツール活用のメリットを強調します。

アセスメントツールで より利用しやすくなったJobCenter

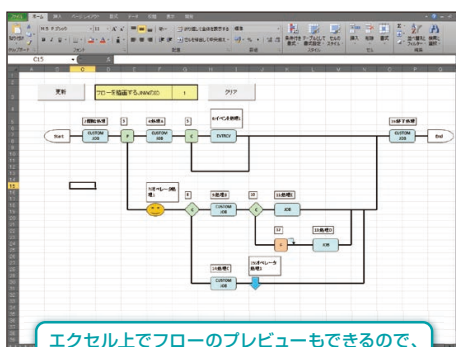
「CPUコア課金の他社製品と比べて、Tier課金のJobCenterはライセンスコストの安さが強みでしたが、移行コストがネックになり、商談が進まないことが多いことも事実です。しかし、このツールにより移行の問題が解消したので、これからコストメリットの高いJobCenter利用のニーズが高まると思います」と小林氏は話します。

最後にNTTデータ東海第三事業部開発担当である道場一博氏が「ジョブ定義の移行は、同じツールのバージョンアップでさえ大変な作業です。まして、移行ツールがない他社製品は、1つ1つの部品の定義を把握するだけでも非常に工数がかかり、人的ミスが発生しやすく、移行後の定義の検証にも多くの時間が必要でした。JobCenterはアセスメントツールにより、現状の定義数の把握、どの程度機械的に変換が可能かなど即座にわかるので、我々にとってお客様へ提案しやすいソリューションになったと思います」と締めくくりました。

● エクセル定義編集ツール



不整合がある場合は、エラー箇所を赤く表示



エクセル上でフローのプレビューもできるので、
効率よく開発を行うことが可能

Excelで「ジョブネットワーク」「スケジュール」「カレンダー」を一括編集できるJobCenterの定義編集用ツール「Definition Helper」

お問い合わせは、下記へ

NEC プラットフォームビジネス本部

〒108-8424 東京都港区芝五丁目33番8号(第一田町ビル)

TEL: 03(3798)7177

【受付時間】9:00~12:00 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日・NEC所定の休日を除く)

URL: <http://jpn.nec.com/websam/jobcenter/>

- 本カタログに記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
- このカタログの内容は改良のため予告なしに仕様・デザインを変更することがありますのでご了承ください。
- 本製品の輸出(非居住者への役務提供等を含む)に際しては、外国為替及び外国貿易法等、関連する輸出管理法等をご確認の上、必要な手続きをお取りください。
ご不明な場合、または輸出許可等申請手続きにあたり資料等が必要な場合には、
お買い上げの販売店またはお近くの弊社営業拠点にご相談ください。